

いってきまーすの、その前に!

事故を未然に防ぐために、まずは義務である定期的な点検・整備が不可欠です。今回は「タイヤの溝の点検」について紹介します。溝が浅くなったタイヤはスリップを起こしやすく危険です。また今の時期、摩耗した冬用タイヤを装着して冬道で事故を起こし、交通マヒを引き起こすケースもありますので、確実な点検をお願いします。



タイヤの溝

雨の日の運転中
「止まりにくい」
「滑るような感じがする」

もしかすると…
タイヤの溝が不足している

そのままにしておくと…

- タイヤがバーストする
- ハイドロプレーニング現象※が発生する

ここが、点検のポイント!

軍手を着用し、トレッド面の亀裂・損傷・摩耗・偏摩耗、異物かみ込みを点検



スリップサインを目視で確認するとともに、工具なども使用して溝の深さを点検します。

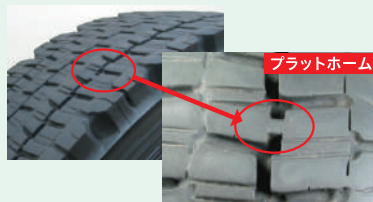
※濡れた路面を高速で走行した際に、タイヤと路面との間に水膜ができることで浮いた状態になり、コントロールできなくなる現象。

大型トラックの「冬用タイヤの残り溝の深さ」に注意!

冬道(積雪路・凍結路)走行中、トラックが雪にはまり前にも後ろにも進まなくなる「スタック」が多数発生しています。特に、大型トラックのスタックは、その解消が困難であり、大規模な立ち往生を招きかねません。冬用タイヤで冬道を走行する場合は、冬用タイヤの残り溝の深さが「新品時の50%以上」であることを確認してください。



2020年12月に発生した、関越自動車道などでの長時間にわたる立ち往生。(画像:国土交通省 自動車局提供)



残り溝の深さが「プラットホーム」に達している状態。冬用タイヤとして使用できません。(画像:国土交通省 自動車局提供)